

## 要 旨

### The Influence of Study Abroad toward Self-Efficacy

久保 千晶

本修士論文は、留学が自己効力感に対してどのような影響を与えるのか、また留学中のどのような経験が自己効力感に影響を与えるのかについて、約10ヶ月間英語圏に留学をした学生に調査した。

本研究は、2年次の秋学期から3年次の春学期間で留学が必須とされている学部に所属する4年次の女子大学生79名を対象に、アンケート用紙を用いて行った。

本研究には、5つの研究課題がある。RQ1では、留学前後でどのような自己効力感も持っているのかを尋ねた。その結果、学生は留学前には、諦めやすさ、英語自己効力感、友達作りへの自己効力感が見られた。留学後には、英語自己効力感、諦めやすさ、友達作りへの自己効力感、自身や状況を制御できない、が見られた。留学を通して、英語自己効力感と友達作りへの自己効力感が高まり、諦めやすさは低くなった。また自身や状況を制御できないという考えは、留学後新たに現れた。

RQ2では、留学中の滞在形態の違いによって自己効力感の違いがあるのか調べたところ、留学中にホームステイをした学生は寮に住んでいた学生より、諦めやすい傾向が見受けられた。また、寮に住んでいた学生及び、寮とホームステイの両方を経験した学生は、ホームステイのみの学生より、友達作りへの自己効力感が高いことが分かった。

RQ3では留学中の課外活動の参加の有無と自己効力感の関係性について尋ねた。留学中に課外活動に参加した学生は参加しなかった学生より、英語自己効力感が高いことが判明した。

RQ4では、留学後の日常的英語4スキル（スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング）とアカデミックな英語4スキルの自己評価について調査した。その結果、両方の全スキルに対して、留学前より出来るようになったと回答した学生が多かった。

RQ5では、どのような経験によって、自分の英語に自信を感じたかについて尋ねたところ、4つのカテゴリーに分けることができた。1つ目が、友達やホストファミリーとの会話、2つ目が、授業に参加出来た事、3つ目が、自分の英語を褒められた時、4つ目が、何も問題なく旅行ができた、また問題が発生した時に解決できた時であった。また、少数ではあるが、自分の英語に自信を感じた経験はないと回答した学生もいた。

留学をするだけでは、自己効力感を向上させるには十分ではない。留学中にどのような経験をするのが、自己効力感を向上させるために重要だと考えられる。

**Keywords** : English, self-efficacy, study abroad, residence and homestay, extra curricula activity